

# 薬物依存症者リハビリ施設

## 開所反対へ運動強化

### 田上地元住民らが集会

田上町羽生田で民間団体「ダルク」が開所を予定している薬物依存症者のリハビリ施設計画をめぐり、地元住民らが23日、羽生田公民館で反対集会を開き、署名活動の強化や運動の輪を広げていくことを決めた。

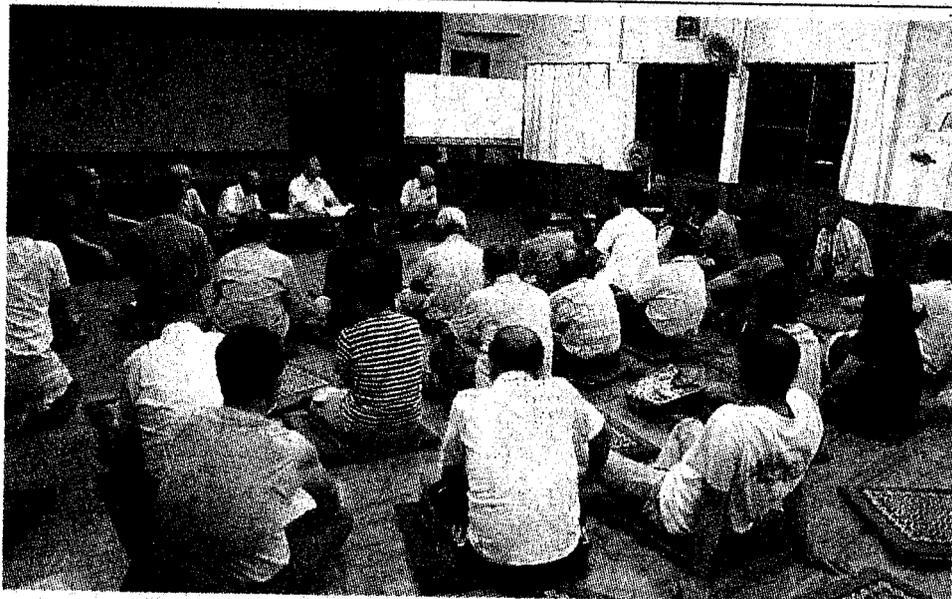
同地区の役員や民生委員ら約50人のほか、佐藤邦義町長も出席。樋口信司総区長(79)は「知恵を出し合って、みんなで取り組んでいきたい」とあいさつ。意見交換では、「総力を挙げて反対したい」と運動方針を支持する一方、「施設の設定趣旨には納得できる部分もある」との声も聞かれた。

同計画が明るみになっ

たのは、2月下旬。開所目前とされたが、同町議会が4月上旬に開所中止を求める意見書を全会一致で可決するなどしたため、表面上、開所に向けた動きは沈静化。しかし、

6月下旬からほぼ毎週末、福島県にある「磐梯ダルク」の関係者3、4人が施設に使う予定の民家に滞在するようになり、住民の一部に不安が募っていた。

反対の動きについて、計画を進めている「茨城ダルク」の岩井喜代仁代表(62)は新潟日報社の取材に対し、「不安に思う



のも分かるが、薬物依存症者の回復のために理解してほしい」と話した。

写真＝薬物依存症者のリハビリ施設計画に反対する住民集会(23日、田上町羽生田の羽生田公民館)